

(明治十三年五月)

工學會誌第百九十七卷

漁罐及漁管等ノ破裂シタルモノ八十四回之二伴ヘル死者二十七名負傷者七十五人ナリ八十回ノ内譯ハ船用漁罐十九回堅形漁罐十五回陸用漁罐六回漁管阻漁鉤等十九回蒸溜器、乾燥器等五回難七回ニシテ其原因ハ腐蝕及鉤ノ不完全ニ基ケルモノ二十八回設計、製造ノ不完全、材料又ハ構造ノ不良、若クハ壓力過度ニ基ケルモノ三十三回監視者ノ不熟練又ハ不注意ニ基ケルモノ十二回其他ノ原因ノモノ七回ナ。

今千八百八十二年以降各年ノ破裂及死傷者ノ數ヲ表示スレバ左ノ如シ(インジニアリング)

	回 數	死 者	負 傷		回 數	死 者	負 傷
一八八二—三年	四五	三五	三三	一八九〇—一年	七二	三一	六一
一八八三—四年	四一	一八	六二	一八九一—二年	八八	二三	八二
一八八四—五年	四三	四〇	六二	一八九二—三年	七二	二〇	三七
一八八五—六年	五七	三三	七九	一八九三—四年	一〇四	二四	五四
一八八六—七年	三七	二十四	四四	一八九四—五年	一一四	四三	八五
一八八七—八年	六一	三一	五二	一八九五—六年	七九	二五	四八
一八八八—九年	六七	三三	七九	一八九六—七年	八〇	二七	七五
一八八九—九年	七七	二一	七六	平	均六八・九三	二八・六	六一・九

右二件 T、N

○日耳曼ノ電氣鐵道

エレクトロテクニッショ、ツアイシユリフトハ昨千八百九十七年九

月一日迄ニ落成シタル日耳曼ノ電氣鐵道ニ關スル統計ヲ掲載セリ今其要ヲ摘記セんニ、
 千八百九十一年ヨリ昨年九月一日ニ至レル七年間各年末ニ於テ電氣鐵道ノ設ケアル市數ハ
 千八百九十一年末ニハ三市、全九十二年末ニハ五市、全九十三年末ニハ十一市、全九十四年末ニ
 ハ二十市、全九十五年末ニハ三十二市、全九十六年末ニハ四十四市、全九十七年九月一日ニハ五
 十六市ノ多キニ達シタリ此外同月同日ニハ電氣鐵道敷設ノ確定又ハ同鐵道工事ニ着手スル
 ノ運ビニ至リタル市數三十四又他ノ三十市ニ於テハ既成線路延長ノ計畫アリキ而シテ前記
 三十四市ノ内八市ニ於テハ工事已ニ落成シテ本年一月一日其營業ヲ開始シタレバ本年々初
 ニ於テ電氣鐵道ヲ使用セル市數ハ通ジテ六十四市トナレリ次ニ線路全長ハ五百九十四哩ナ
 ルガ之ヲ單線トシテ計算スレバ八百四十二哩トナル又電動車ノ全數ハ二千二百五十五輛附
 屬車ノ全數千六百一輛ナリ此外六百十九哩ノ軌條ヲ敷設スペキ五百四哩ノ線路已ニ工事ニ
 着手セシナルベク若シ其運ビニ至ラザルモ敷設ニ確定シタルニ相違ナシ今日確メ得タル發
 電機蓄電器ヲ除クノ勢力ハ通計二万一千四百六十五「キロワット」ナルガ別ニ其詳細ヲ確メザ
 ル、或ハ市ノ中央發電所ヨリ電流ノ供給ヲ仰ガザル線路アリ今之ヲモ前記ノ勢力ニ加算セバ
 通シテ二万四千九百二十「キロワット」ニ登ルナラン此計算ハ總線路ノ平均ニ基タルモノニ
 シテ即チ軌條一哩ニ付平均三十五「キロワット」最大勾配ニ於テハ一電動車ニ付四十「キロワッ
 ト」而シテ線路勾配ハ百分ノ〇三ト二〇トノ間ヲ昇降シ百分ノ四ト五ガ最モ多ク其平均ハ約
 百分ノ七トナルナリ(エレクトリカル、インジニア)

○製綿業ニ電氣ノ應用

ダブルユード、ビースミツス氏ハ昨年十二月米國機械學會ノ集會ニ